

会議等開催結果報告書

1. 会議名	令和5年度(2023)第1回出雲市介護保険運営協議会		
2. 開催日時	令和5年(2023)5月25日 木曜日 14:00～16:00		
3. 開催場所	出雲市役所 本庁6階 全員協議会室		
4. 出席者	<p><委員></p> <p>嵐谷直美委員、飯國吉子委員、石橋陽子委員、磯田洋平委員、伊藤智子委員、岩崎陽委員、岩崎洋子委員、大島俊介委員、加藤哲夫委員、金森功委員、川谷吉正委員、黒松基子委員、小林祥也委員、佐藤美也子委員、塩飽邦憲委員、新宮直行委員、須谷生男委員、錦織和人委員、深井綾子委員、福場由紀子委員、福間昇委員、布施礼子委員、村下伯委員、渡部さゆり委員</p> <p>(50音順)(24名)</p> <p>欠席：高橋幸男委員、名越究委員(2名)</p> <p><傍聴人>(0名)</p> <p><事務局></p> <p>健康福祉部長、高齢者福祉課長、医療介護連携課長 ほか</p>		
5. 会議等において検討された事項等	<p>1 健康福祉部長あいさつ</p> <p>2 委員紹介、会長選出</p> <p>3 会長あいさつ</p> <p>4 議事</p> <p>(1) 第9期出雲市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定について 資料1</p> <p>5 報告事項</p> <p>(1) 第8期計画に係る令和4年度成果指標の確定評価について 資料2</p> <p>(2) 令和4年度実績について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定者の状況について 資料3 ・サービス種類別給付実績について 資料4 ・地域支援事業実績について 資料5 ・高齢者福祉事業について 資料6 <p>(3) 令和5年度介護人材の確保・定着に向けた事業実施について 資料7</p>		
6. 担当部署	健康福祉部高齢者福祉課、医療介護連携課	連絡先	0853-21-6212
7. 会議録	別添のとおり		

令和5年度(2023)第1回出雲市介護保険運営協議会会議録(要旨)

会長選出	<p>会長 塩飽邦憲委員</p> <p>副会長 高橋幸男委員、伊藤智子委員</p>
1. 議事	
事務局	<p><u>第9期出雲市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定について</u> 資料1</p>
会長	<p>基本的に8期計画の骨格と同じ作りである。ニーズに適応したサービス基盤の調整、地域包括ケアの充実、人材確保の3本柱となる。</p>
委員	<p>質疑なし</p>
会長	<p>議事についてはこれで了承とする。</p>
2. 報告事項	
事務局	<p><u>第8期計画に係る令和4年度成果指標の確定評価について</u> 資料2</p>
会長	<p>各項目で計画を立て実施し、その評価をするというのがP D C Aサイクルであり、達成状況を国に報告しなければならない。市では見える化し、何ができて何ができないか毎年検証を行っている。</p> <p>特に、直近の3年間コロナ禍により研修会など、取り組めてない部分が評価を下げているものの、コロナが収まるに従って、活動が改善しつつある。</p> <p>しかし評価が1の項目や、下がった項目については真剣に考えなければならない。</p> <p>市民と一緒にやるものやサービスに従事者の研修、それから地域ケア会議で協議して改善に結びつけることなど、まだ不十分な点があると思う。</p>
事務局	<p><u>令和4年度の事業実績について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>認定者の状況について</u> 資料3 ・ <u>サービス種類別給付実績について</u> 資料4 ・ <u>地域支援事業実績について</u> 資料5 ・ <u>高齢者福祉事業について</u> 資料6
会長	<p>75歳以上の高齢者が増加しているが、認定者は増加していない。その原因は資料にあるとおり、認知症高齢者が減少しているから。</p> <p>85歳とか90歳以上では認定率が高いが、高齢者全体としては健康維持の取り組みにより、認知症の高齢者が減少している。認定率2割のところ、踏ん張っておられる。</p> <p>また、資料3-1の事業対象者とは、認定申請を受けなくてもチェックリストにより総合事業を利用される方である。地域での新しい介護の取り組みを促進するためにこの事業が取り組まれてるが、利用は伸びていないという状況である。この辺も今後</p>

	<p>の対応が必要かと思う。</p> <p>次に資料4についてだが、サービス計画値にはコロナ禍の影響を考慮していないため、実績が下回った。しかし、ニーズがありサービスが増加したものもある。</p> <p>スタッフが確保できないことや、サービス付き高齢者向け住宅が増えたことにより利用が減った事業も出てきている。</p>
A委員	<p>短期入所生活介護が非常に下がっているが、その要因はサービス付き高齢者住宅等が増加したのが要因の一つとあるが、それ以外の要因で例えば受け入れる側の問題はないのか。</p>
B委員	<p>令和4年度に関しては、コロナウイルス感染拡大が大きな要因である。クラスターが発生すると2週間で感染は落ち着くが、感染者がゼロになった上で、施設内のゾーニングを解除してから受け入れを再開するため、少なくとも1か月は、新規の受け入れを中止する。</p> <p>また、長期利用者が減り、1泊、2泊をピンポイント利用される方が増えている。</p>
C委員	<p>当施設でもコロナのクラスターが発生し、10日程度で収まったものの、そこからの半月は、利用が少い状況だった。</p> <p>また、今までの多床室をユニット型個室へ変更したため、料金的な面での利用控えがあると思われる。</p>
会長	<p>施設入所について、以前は待機者が多く、在宅で療養しておられたが、最近10年で様々な施設整備が進んだため、85歳以上の方が増えてるにもかかわらず、待機者は少ない状況である。</p> <p>資料3について、第9期計画における高齢者の推計を行うにあたり、前期高齢者と後期高齢者を区分し、認定者も区分したデータを出してほしい。高齢者ひとくくりにはできない状況になっている。</p>
D委員	<p>資料5の地域支援事業費において、訪問第1号の訪問事業に関し、歳出実績があるが、説明のところでは訪問型、介護予防生活支援サービス事業の中の訪問型については、データ提示が無いため、状況の説明を願う。</p>
事務局	<p>地域支援事業費の訪問第1号の訪問事業では従前サービスと多様なサービスが含まれている。説明資料には従前サービスを除いたものを掲載しているが、これは多様なサービスである訪問サービスCは現在利用が無いため、説明資料には掲載していない。</p>
E委員	<p>介護医療院の整備が進んでいないが、ニーズはあるのか。早急に増やす必要があるのか考えなければならない。</p>
事務局	<p>今年度中の開設に向け現在準備を進めている事業所がある。9期計画でも介護医療</p>

	院の整備は必要と考える。
会長	85歳以上の人口が増える中、介護と医療の両方ができる介護医療院を新たに作って病院からの転換を図ることが国の目的だが、実際は単価の面や人員確保等が困難という理由で進んでいない。ニーズはあるが、整備されるまでは入院や老人保健施設への長期入所に対応されている。
D委員	介護医療院の今後の確保については、出雲圏域での保健医療計画の改定と共に検討する事項と考える。急性期、回復期、慢性期の病床数について検討し、どれぐらいの必要性があるのか見ていく必要がある。
会長	特定施設入所者生活介護の乖離要因欄にサービスの指定を受けない高齢者向け住宅が増えたとあるが、この詳細を説明願う。
事務局	ヘルパー事業所併設型の高齢者向け住宅が近年増加しており、軽度の方が入られるケースが多い。その方が重度化すると、特養や他の施設に入所されるため、この特定施設の利用数が増えないという現状である。
F委員	介護医療院と特定施設についてだが、住宅型のサービスつき高齢者住宅に定期巡回型訪問介護看護に入ってもらおうという事例が多い。定期巡回は、介護部分が随時と巡回型で提供されるサービスであり、そこに看護も受けられるので、実は医療依存の高い重度の人が非常に多く、介護医療院の代役となっている。
G委員	認定率について、島根県と出雲市との比較がされているが、松江市の現状も知りたい。資料を頂きたい。
事務局	後日提示する。
事務局	「令和5年度介護人材の確保・定着に向けた事業実施」の説明 資料7 質疑なし。
事務局	今後は各部会を開催し、9期計画の策定に向けて準備を進めます。 以上をもちまして本日の会議を終了いたします。